

COMPANY PROFILE

会社概要 (2022年3月31日現在)

商号 日本ドライケミカル株式会社
(Nippon Dry-Chemical CO., LTD.)
代表者 代表取締役社長 遠山 榮一
設立 1955年4月23日
資本金 700百万円
従業員数 740名／グループ総数1,038名

役員体制 (2022年6月24日現在)

役員	代表取締役社長	遠山 榮一
	常務取締役	浅田 裕冲
	取締役	亀井 正文
	取締役	松岡 猛
	取締役	山内 良介
	社外取締役	高橋 宏幸
	常勤監査役	大橋 徹
	社外監査役	渡慶次 憲彦
	社外監査役	紀陸 保史

株式の状況 (2022年3月31日現在)



株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
総合警備保障株式会社	1,100,000	15.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	546,200	7.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	534,100	7.62
日本ドライケミカル取引先持株会	403,300	5.76
株式会社初田製作所	200,000	2.85
新日本空調株式会社	192,000	2.74
沖電気工業株式会社	178,000	2.54
株式会社吉谷機械製作所	160,000	2.28
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	142,800	2.03
株式会社東京エネシス	140,000	1.99

※1 当社は自己株式180,647株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式のご案内

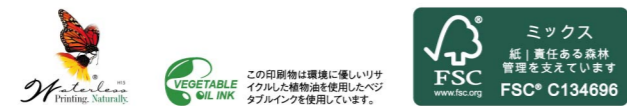
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会：毎年3月31日
期末配当金：毎年3月31日
中間配当金：毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して
定めた日

単元株式数 100株
証券コード 1909
公告の方法 電子公告の方法により、当社ホームページに
掲載いたします。
(<https://www.ndc-group.co.jp/>)
ただし、事故等やむを得ない事由によって電
子公告による公告が行えない場合は、日本経
済新聞に掲載いたします。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- ・証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出
およびご照会は、口座のある証券会社へてお願いいたします。
- ・証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先
にご連絡ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
(平日9:00~17:00/土日祝除く)



NDC 日本ドライケミカル株式会社

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー
<https://www.ndc-group.co.jp/>

第70期

株主通信

2021年4月1日~2022年3月31日

NIPPON DRY CHEMICAL



NDC 日本ドライケミカル株式会社

証券コード 1909



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループの属する防災業界におきましても、原材料価格の高騰による業績への影響が懸念される状況にはありますが、防災・減災を目的とした公共事業や都市部の大規模再開発等による需要拡大への期待感は尚、継続しているように見受けられます。

このような経済状況のもと、当社グループは、引き続き自動火災報知設備から消火設備、消火器そして消防自動車までを広くカバーする総合防災企業としての立ち位置を更に強化しつつ、製品ラインナップの拡充を図り積極的な営業活動を推進してまいりました。また、各種防災設備の設計・施工、消火器及び消防自動車等の製造そしてそれらのメンテナンスを通じて、世の中に高度な安心・安全を提供し、より良質な社会インフラを構築するという社会的使命を果たすべく、グループ一丸となって注力しております。

火災を未然に防ぐ新たな予防防災分野へ、 進化する総合防災企業として

当社は、消火器の製造からスタートし、65年を超える歴史のなかで消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の分野へと事業領域を拡大し続け、お客さまの防災にかかわるすべてのニーズにワンストップでお応えする総合防災企業へと発展してまいりました。

2022年3月期においては、従来型の消防防災にとどまることなく、火災を未然に防ぐ「予防防災」という新たな分野に注力しており、先行して製品化した火災抑制剤放射器「クイックスプラッシャー ワイド」に加え、よりターゲットを狙いやすく、長距離の放射が可能な「クイックスプラッシャー トリガーL・M」を上市いたしました。

当該製品は、ガソリン等の漏洩による火災や想定外の作爲的な火災を抑制することに効果的であり、多くの公的機関や警備業、飲食業等から引き合いをいただいております。また、有機ふっ素化合物を一切含有せず環境に配慮した、画期的な液体系消火薬剤「Gwet」を新たに開発しました。今後この「Gwet」を用いた、当社オンリーのさまざまな消防機器製品・システムの上市を推進してまいります。

当社は、火災報知から消火までをカバーする最強の消防防災プロフェッショナルとして、環境対応型社会の要請に応えつつ、お客さま視点に立った業界ナンバーワンの総合防災メーカー、エンジニアリングカンパニーとして進化し続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 遠山 榮一

NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス

新発売！火災を未然に防ぐ 「クイックスプラッシャー トリガーL・M」

ガソリン等を用いた放火による惨事を未然に防ぎたいという思いから、2020年に誕生した日本初の火災抑制剤放射器「クイックスプラッシャー」。警備や防災等に従事する皆様からの要望を受け、より能動的な防護を可能とする「クイックスプラッシャー トリガーL・M」を、2022年2月に発売いたしました。



ターゲットを狙いやすいように操作性が向上。より長距離の放射も可能になりました。

IFCCA2022 YOKOHAMA 横浜国際消防・防災展に出展

2022年6月8日~9日、パシフィコ横浜にて開催された「IFCCA2022 YOKOHAMA横浜国際消防・防災展」に出展いたしました。この展示会は、市民、消防関係者など1万人以上が集まる「IFCAA2022 YOKOHAMA」に併設して開催されたものです。

当社ブースでは、エンジンルーム用消火装置「スプラッシュドライ」や火災抑制剤放射器「クイックスプラッシャー」、新開発の消火器を展示し、当社独自の製品・システムを積極的にPRいたしました。

FEATURE

防災備蓄品は見直しが大切

事業所や自宅等での在宅避難に備えて、人数分の防災備蓄品を用意しましょう。

1 いざというときのために定期的なチェックを

防災備蓄品は、飲料水や食料品だけでなく、衛生用品にも3~10年程度の使用期限を設けている商品があります。

その他、懐中電灯や毛布等、使用期限の設定がない製品も経年劣化の可能性があります。もしものときに安心して使用できるよう、定期的にチェックをしましょう。

9月1日は「防災の日」です。この日に合わせて、防災備蓄品を見直してみたいかがでしょうか。

特に注意！期限がある製品

非常食

飲料水、缶詰、米、パン、クッキーなど

衛生用品

消毒液、ウェットシートなど
※使用期限が設けられていない商品もございます

2 備蓄の目安はどのくらい？

災害発生後は、ライフラインの停止や物資供給の停滞などが予想されます。1人あたり最低3日分の防災備蓄品を用意し、災害時に備えましょう。

備蓄例 1人あたり(3日分)の目安

<p>飲料水</p> <p>1日3L × 3日 ⇒ 9L</p>	<p>非常食</p> <p>1日3食 × 3日 ⇒ 9食</p>
<p>トイレ</p> <p>1日5回 × 3日 ⇒ 15回</p>	<p>生活必需品</p> <p>毛布、ランタン、備蓄ラジオなど</p>

3 ふだんから備蓄を活用

「ローリングストック法」とは、備蓄した非常食を定期的に消費し、食べた分だけ買い足していく方法です。これにより、「いざというときに、期限切れ」といった事態を防げます。非常食は、すぐに取り出せる場所に保管を。毎月、非常食を食べる日を決め、その日に1食分を食べ、食べた分を買い足します。

また、生活用品も食品と同じように日常的に使いながら買い足すことで、ある程度の量を確保しながら期限切れを防げます。ぜひ試してみてください。



COLUMN

- 社員が語るNDC -



私は、大学時代に博物館学芸員の実習を行った際、収蔵庫内の貴重な文化財を守るガス消火設備を見て、防災業界に関心を持つようになりました。

所属する部署では、消防設備・機器の点検を中心に、改修工事やリニューアルのご提案、新規開拓などを行っています。この仕事でやりがいを感じるのは、点検・工事など業務の中で新たに得た知識を次の仕事に生かせたときや、お客様からの質問に素早く回答ができたときなど、自分自身の成長を実感できたときです。

一方で、覚えることがとにかく多く、専門性の高い知識が求められるので、その点では苦労します。また、緊急対応を求められることもしばしばあります。そのようなときは、諸先輩方にアドバイスをいただきながら、迅速に最善の策がとれるよう心掛けています。今後も、経験を積み重ね、お客様に信頼される営業を目指します。



入社後、消防設備士乙種6類の資格を取得しました。今は甲種の取得に向けて勉強中！

ABOUT PERFORMANCE

2022年3月期 連結決算概要

連結貸借対照表 (単位:千円)

	前期末 2021年3月31日現在	当期末 2022年3月31日現在
資産の部		
流動資産	24,939,810	29,197,667
固定資産	15,085,301	12,254,074
有形固定資産	8,955,660	9,232,495
無形固定資産	1,249,387	1,090,372
投資その他の資産	4,880,252	1,931,206
資産合計	40,025,111	41,451,742
負債の部		
流動負債	16,619,583	16,056,496
固定負債	4,433,700	5,694,466
負債合計	21,053,283	21,750,962
純資産の部		
株主資本	15,515,925	17,103,235
資本金	700,549	700,549
資本剰余金	3,620,607	3,774,943
利益剰余金	11,451,627	12,884,651
自己株式	△ 256,859	△ 256,908
その他の包括利益累計額	641,785	500,482
非支配株主持分	2,814,117	2,097,060
純資産合計	18,971,828	19,700,779
負債純資産合計	40,025,111	41,451,742

自己資本比率(連結)

	40.4%	42.5%
--	-------	-------

POINT

当連結会計期間末の財政状態は、利益剰余金の増加等により株主資本が前期末比1,587百万円増加し、資産合計は41,451百万円となりました。また、当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは3,174百万円の収入となり、フリー・キャッシュ・フローは1,105百万円となりました。

連結損益計算書 (単位:千円)

	前期(累計) 自2020年4月1日 至2021年3月31日	当期(累計) 自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	43,073,810	44,793,090
売上原価	32,771,670	34,933,969
売上総利益	10,302,139	9,859,120
販売費及び一般管理費	6,905,823	7,031,225
営業利益	3,396,316	2,827,895
営業外収益	386,456	256,847
営業外費用	605,492	307,113
経常利益	3,177,279	2,777,630
特別利益	228,207	505
特別損失	83,388	168,106
税金等調整前当期純利益	3,322,098	2,610,029
法人税等合計	1,037,879	839,221
当期純利益	2,284,219	1,770,807
非支配株主に帰属する当期純損失	△ 27,929	△ 120,037
親会社株主に帰属する当期純利益	2,312,148	1,890,844

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:千円)

	前期(累計) 自2020年4月1日 至2021年3月31日	当期(累計) 自2021年4月1日 至2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,099,554	3,174,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 505,091	△ 2,068,911
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,758,395	△ 100,298
現金及び現金同等物に係る換算差額	30,309	27,608
現金及び現金同等物の増減額	866,377	1,032,990
現金及び現金同等物の期首残高	3,650,528	4,516,905
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,516,905	5,549,896

POINT

当連結会計年度の連結損益は、防災設備事業においてプラント施設の工事件数が増加したことに加え、メンテナンス事業および商品事業も好調だったこと等により、売上高は前連結会計年度比1,719百万円の増収となりました。